

元気おおとよ新聞

令和5年8月1日発行 NO.42



お山のてづくり市

5月28日（日）大田口の旧大豊中学校グラウンドで初開催！お天気にも恵まれ、たくさんの出店と大勢の人でにぎわいました。

「会場が広々していて気持ちがいい」「子どもたちが草の上でのびのび遊べました」「来年もぜひやってほしい」などの声があちこちで聞かれました。地元地域のみなさま、ご協力ありがとうございました。（鄙）

ラスト・うだつマルシェ

去る6月3日（土）に開催された、徳島県・三好市池田町の「うだつマルシェ」が12年間の歴史に幕を閉じました。おおとよガレットは、11年前から出店しており、回を重ねるごとに大きくなりたくさんの方々に来ていただいたこと、うれしく思います。

イベントが今回で最後というのはとても残念ですが、うだつの町並みはそのままに、奥に入ると隠れ家的なお宿に生まれ変わっていたり、新しくおしゃれな飲食スペースが出来たり、と時代に即した新しい活用もされています。

残すべきものは残し、思い切って変えるところは変える、何事においても変化を恐れず、チャレンジすることが大切かなと、思いました。イベントはなくても、ちょっと寄ってぶらっと街歩きをしてみたいはいかがでしょうか？（由美子）



企画連載 第2回 空き家を考える

今回は現在大豊町で行われている空き家対策モデル事業について書かせていただきました。

現在、私たちは指定した重点地区において、各区長さんへの事前説明や社会福祉協議会さんのミニデイに参加し啓発活動及び集落の空き家情報について聞き取り調査をしております。今回はその中でも、特に今後重要になってくると思われる「相続」の問題についてお伝えしたいと思います。

相続ができていない物件の問題

相続が正しくできていない物件は、処分したいと考えた際に大きな壁となってきます。実際にあった以下の相談をもとに、ご説明します。

【相談者は80代の女性、県外にお住まいで、大豊町出身の旦那さんが亡くなられて、大豊町の実家を処分したい。】
（裏面につづく）





こちらは古い物件でしたが空き家になってから日が浅く、景色も良い立地だったので、うまくいけば直ぐにでも買い手や借り手が見つかると思われました。しかし、旦那さんのお父さんから相続手続きをしていなかったため、話がストップしてしまいました。

旦那さんは兄弟も多くおり、奥さんは長らく旦那さんの親族と疎遠となっていたために住所がたどれませんでした。ご高齢のため自分で動くことも無理な状況で、相続の手続きをしたくても了承が必要な相手かなりの数になることが想像されます。仮に司法書士に依頼したとしても数十万円の支払いが必要になってくる可能性が高い状況となってしまいました（※相続登記は時間が経てば経つほど費用が高くなってきます）。

このように、相続がしっかりできていない場合、いざ空き家を処分したいとなった時に動き出しても手遅れ、もしくはかなりの手間と労力を必要とする状況になってしまいます。今回の例では、今後奥さんから息子さんの代に移った段階で、相続関係がより複雑になることが予想されます。私たちも現状では動ける幅に限りがありますので、厳しい状況となっています。

移住者紹介 ほうだい ゆうき 蓬台祐希さん

大阪府出身（25歳）

今回の移住者は、今年から大豊町の集落支援員として活躍する蓬台さんです。

まだ25歳ということですが、どんな学生時代でしたか？

大学は法学部でサークルは応援団に入っていました。はじめはよさこいサークルに入ろうと思ってたのですが、人数が多く目立つことができないなと思って、人前に立つことがしかなかったのが、新入生勧誘の時に応援団に入ることになりました。応援団では大学の野球やサッカーの試合の応援や、学祭や市内の敬老の日などで開催されるステージに立って応援を披露していました。法学部を出ているので、現在の職場で法律や要綱を見るのに役立っています。

学生を卒業後はどんな生活をしていたのですか？

卒業後は東京へ行って、労働基準監督署に2年間勤務していました。その間にカメラを始めて、撮影することや映像をつくるのが楽しくなり、自分で色々してみたいと思うようになっていきました。

そんな考えを持ち始めてから、それを実践できる場所を探していて、本山にあったNPO法人ヒトマキと繋がったことで嶺北にやってきました。始めはそのシェアハウスで田舎暮らしをしながら自分のやりたいことを試していたのですが、そのNPOも途中で解散してしまっただけで、そのあと大豊町のはるひ畑さんや豊永のこども教室で働いていたのですが、そのうちに大豊町で自分のやりたいことを試してみたいと思うようになりました。

そもそも、大豊町を選んだのはなぜですか？

本山に住んでいるとき、大豊町の人たちと関わっていきななかで、それぞれの個性がすごいと感じるようになりました。そんな個性が沢山ある町に可能性を感じたのが理由ですね。お手伝いさせてもらっている夢来里の方たちの活動もすごくおもしろくて、刺激をもらっています。集落支援員になったのも、そんな可能性を感じる大豊町をもっと外に向けて紹介していきたいと思っています。

大豊町ではどんなことをやってみたいですか？

すごく子供っぽい言い方になってしまうのですが、大豊

先送りをしないために

上記のような相談は決して珍しい事例ではありません。高齢化と核家族化が進む現在、親族関係をたどるだけでもかなりの手間が必要になっています。今はまだしっかり管理されている物件でも、高齢化のために管理ができなくなってしまった瞬間に空き家の荒廃が進んだり、相続が次の世代へ移った段階で手続きが一段と難しくなるという問題があります。空き家を管理の方や、将来的にご自身の家が空き家となることがわかっておられる方は、ぜひ相続のことについても考えていただければ幸いです。（猪野）



町で最強のクリエイター集団を作りたいですね。僕は写真や映像の腕をどんどん磨いて行きたいと思っています。今はインスタグラムで発信していますが、イラストを描ける人やデザインを考える事ができる人などと繋がって、一緒に作品作りができれば面白いかと考えています。そういう活動を役場の中から起こして、大豊町のPR動画なんかを大豊町のクリエイター達で作って発信できれば面白いと思いませんか？そんな活動が全国で知られる事でUターン者を増やすきっかけになったら良いかなと考えています。

以上が、今回の紹介者の蓬台祐希さんでした。彼は大豊町に来てまだ半年しかたっていない。でも、話してみてもっと昔から付き合いがあったように感じる、とても親しみやすい青年です。何より、自分のやりたいことがストレートに伝わってくる姿勢がとても好印象でした。難しい挑戦ではあると思いますが、これから大豊町で活躍してほしいと素直に思えるインタビューでした。

現在彼は、集落支援員として各集落活動センターのサポートを行っています。町民の方も会う機会が増えると思いますので、ぜひ声をかけてあげてください。わたしたちも彼の活動を応援していきたいと思っています。（猪野）